

進捗状況の概要（1ページ以内）

アクティブラーナーの育成に向け、4つの領域「A：授業改革」「B：授業外学習支援」「C：ルーブリックの導入」「D：アクティブラーナー水準調査の開発・実施」を中心に以下、AP事業を推進した。

学内の実施体制：キャリア形成学部内のAPWGで事業の企画立案、進捗把握し、同学部の会議で事業の審議を経て、全学AP協議会、全学FD委員会、学習ステーション運営会議などAP事業の審議、依頼、協働、共有など図った。学習ステーション内で、上回生の学生がピアチューターとして下級生の学生を学習支援した。AP協議会で、アクティブラーナー水準調査の実施、AP成果報告会など、全学的な協働のもと実施推進した。随時、大学運営会議で全学的なAP事業推進に向けた審議、AP成果等の報告を行った。学生サポートセンターがAPの管轄部署として、EM・IR部および学務企画部がEM推進に向けたIRデータ収集・分析と全学FDの管轄部署として、教職協働体制の構築を図った。

中心となる取組：全学共通の初年次必修科目「京都光華の学び」「シチズンシップ」等を中心に、クリッカーやペアワークなど授業形態のアクティブ・ラーニング化を図った。また、これらの科目等で、学習習慣の形成、学び技法の習得などを目的に定期的にレポート課題等を課し、学習ステーションに常駐の教職員や上回生の学生チューターが授業外学習支援や学生どうしの学び促進を図った。学修成果の可視化の方法として、初年次必修科目やキャリア形成学部の専門科目等を中心にルーブリックを導入した。また、健康科学部を焦点にあて、ルーブリックを使った医療系科目のパフォーマンス評価について、外部講師を招いた全学FD講演会を行った。授業および授業外学習への学習態度や行動について、APで開発したアクティブラーナー水準調査を全学科、全学年の学生を対象に全学FD委員会で実施し、その結果を個別の学生にフィードバックした。

取組の成果：EM・IR部が各学科でのアクティブ・ラーニング実施状況を調査し、その分析結果を全学FD委員会および各学科で議論し、授業やカリキュラム等の改善につながった。授業外の学習支援は、本学の教育指針である「寄り添う教育」の中核として、全学の教職員、学生の間で浸透した。この授業と授業外支援の連携モデルを精緻化させた。年度末のFD研修会テーマ「学修成果の可視化とその向上」で、各学科の授業実践例を報告、議論し、次年度に向けた改善につなげられた。アクティブラーナー水準調査の結果は、一部の学科で個別面談、個別指導などに有効活用できた。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組：上記の4領域の全学的な取組推進を図るため、補助期間終了後も全学AP協議会を継続運営する方針で、以下現段階の計画、進捗である。「領域A：授業改革」「領域C：ルーブリックの導入」について、キャリア形成学部を中心にアクティブ・ラーニング授業の実践と研究を推進し、その成果を全学AP協議会で議論、共有する。EM・IR部が全学的なアクティブ・ラーニングの従業実践の状況を毎年度調査し、その結果を全学FD委員会で議論、共有を図る。「領域B：授業外学習支援」について、必要な教職員スタッフ体制について検討を進めている。「領域D：アクティブラーナー水準調査」について、企画立案をキャリア形成学部のAPWGと全学AP協議会で話し、EM・IR部と学務企画部が実施する体制を継続、発展させる。

学内外への波及効果：AP事業の予定や進捗等を定期的に本学のAPホームページに公開した。徳島大学（テーマIの幹事校）が中心に取り組み開発した、アクティブラーニングオンライン（ALO）に本学のAP事業の進捗状況を投稿し、テーマIの採択校や教育関係者と取組の共有を図った。徳島大学（テーマIの幹事校）で開催のアクティブラーニングシンポジウム（11/18）で、また本学の短期大学部（テーマI・II複合型の幹事校）主催のAP全テーマ合同報告会（2/20）で、テーマIの採択校として取組を報告した。AP成果報告会をテーマ「アクティブラーナー水準調査結果から見た4年間の学びのリフレクション」で実施（3/2）し、学内外の大学、教育関係者にAP事業成果を発信、共有した。また、AP成果報告書を発行し、学内のAP、FD関連の教員や関連部署や、AP採択校などに配布、郵送して学内外での共有を図った。また、AP事業の成果を学会、学術論文等で発表し、学外へのAP事業成果の波及につなげた。